

■ 掲示板

■ 兵庫県立大学 高度産業科学技術研究所 教員公募要領

1. 公募人員：准教授 1名
(男女共同参画を推進していますので、女性研究者の応募を歓迎します。また、外国人の方の応募も歓迎します。)
2. 所属部門：光・量子科学技術大講座機能性マテリアル物性分野
3. 専門分野：軟 X 線領域の物性分析・評価に精通し、機能性材料の新しい分野を開拓できる方。加えて、産業界との共同研究に積極的に取り組み、さらに機能性材料開発を進展させるために必要な新規軟 X 線用放射光ビームラインの設計・構築ができる方が望ましい。
4. 教育担当：工学部機械・材料工学科および工学研究科材料・放射光工学専攻の科目を担当できる方
5. 応募資格：①博士号取得者 ②大学・大学院教育に熱意があり、研究指導の経験のある方
6. 着任時期：2021年4月1日
7. 任期：なし
8. 応募書類：
 - ① 履歴書 (写真添付)
 - ② 研究業績の概要 (1,000字程度)
 - ③ 研究業績リスト (査読付き論文、国際会議発表、解説・著書、受賞歴、特許、競争的資金獲得状況など)
 - ④ 主要論文別刷り 5編 (コピー可)
 - ⑤ 「着任後の研究計画」(2,000字程度)
 - ⑥ 「教育の実績・抱負」(1,000字程度)
 - ⑦ 「社会貢献の実績・抱負」(1,000字程度)
 - ⑧ 本人について照会可能な方 2名の氏名と連絡先 (所属、住所、TEL、E-mail)
 - ⑨ 応募者の連絡先(氏名、所属、自宅住所、TEL、E-mail)
9. 応募締切：2020年10月26日 (月) 必着
10. 選考方法：書類による一次選考後、面接 (模擬授業を含む。) による二次選考を行います。
面接の際の交通費は応募者の自己負担とします。
11. 書類提出：

〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都 3-1-2
兵庫県立大学高度産業科学技術研究所課長 廣利靖弘
TEL：0791-58-0249 FAX：0791-58-0242
※封筒の表に「教員応募書類在中」と朱筆し、簡易書留で送付のこと。書類は返却しません。
12. 問合せ先：

兵庫県立大学高度産業科学技術研究所 所長 渡邊健夫
TEL：0791-58-0249 FAX：0791-58-0242
E-mail：takeo(a)lasti.u-hyogo.ac.jp
※E-mail によるお問い合わせの場合には(a)は@として送信

ください。

■ 広島大学大学院 (大学院先進理工系科学研究科) 准教授又は助教公募

1. 所属 (配属)：広島大学大学院 (大学院先進理工系科学研究科)
2. 職名・人員：准教授又は助教 1名
※採用時の業績審査により、テニュア教員 (准教授)、テニュアトラック教員 (准教授、助教) のいずれかに決定
3. 採用予定年月日：2021年4月1日
4. 任期又は有期雇用契約期間：

【テニュアトラック制適用の場合】
テニュアトラック期間：7年 (准教授の場合) または 5年 (助教の場合)
5. 専門分野：放射光を用いた物質科学研究
6. 応募書類：
 - (1) 履歴書 (市販用紙を使用、写真貼付)。過去 5 年間に広島大学で雇用 (TA, RA, 研究員等を含む) されたことがある場合は、漏らさず記載してください。
 - (2) 研究業績一覧 (各研究業績に番号を付け、審査付論文の番号にはアンダーライン、主要研究業績 5 点には番号の冒頭に * 印を付けること。招待講演のリストや博士論文タイトルも含めてください。)
 - (3) 主要な研究業績 5 点 (別刷又はコピー、著書)
 - (4) 教育上の主要な業績
 - (5) 社会貢献に関わる主要な業績
 - (6) 大学等における管理運営に関わる主要な実績
 - (7) 最近 5 年間における外部資金の獲得状況 (間接経費も含めた獲得金額も含めること。)
 - (8) 研究・教育に対する抱負と中長期計画 (2,000~3,000字)
 - (9) ResearcherID または ORCID 情報 (様式任意)
※Clarivate Analytics 社または ORCID web ページより取得が可能。
7. 応募期限：2020年10月30日 (金) 17:00 (日本標準時) (必着)
8. 応募書類送付先：

広島大学大学院先進理工系科学研究科 物理学プログラム 副プログラム長 森吉千佳子
physsrs20ops at ml.hiroshima-u.ac.jp (at は@に換える)
1つの PDF ファイルにまとめて添付すること。タイトルは、「CSR 応募：氏名」とすること。
9. 問合せ先：

広島大学大学院先進理工系科学研究科 物理学プログラム教授 木村昭夫
TEL: 082-424-7400 FAX: 082-424-0717
E-mail: akiok@hiroshima-u.ac.jp
(注) テニュアトラック制、担当科目、応募資格、選考方法、

勤務形態、等の詳細は下記 HP をご覧ください。
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/employment/kyoinkobo/senshin>

■2021年度 前期 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光共同利用実験課題公募

1. 募集対象：当研究所の放射光および低速陽電子を利用する学術研究のための実験が対象です。
国内外の大学及び公的研究機関の教員・研究員・技術職員、成果公開型の学術研究を認める民間企業の研究者、又はこれらと同等と所長が認める者を対象とします。
2. 申請受付開始：2020年10月1日（木）
3. 応募要領：実験課題申請システム【<https://pmsweb.kek.jp/k->

pas/】を利用した電子申請となります。
応募締切は2020年11月初旬（予定）です。
なお、初心者課題、緊急課題等については、随時受付しています。
具体的な申請書作成等に関する詳細については、
<https://www2.kek.jp/uskek/apply/pf.html> をご参照ください。
4. その他：共同利用実験の成果については、公表していただきます。
5. 問合せ先：
高エネルギー加速器研究機構
研究協力部研究協力課
共同利用支援室共同利用係
E-mail: kyodo1@mail.kek.jp TEL: 029-864-5126

■会告

■第2回拡大放射光施設代表者会議議事録

日時：2020年7月9日（木） 10:00～12:00

場所：Web (Zoom) 会議

出席者（19名）

施設代表（12名）：竹田美和、船守展正、雨宮慶幸、妹尾与志木、郭其新、解良聡、西畑保雄、渡邊健夫、島田賢也、石川哲也、小島一男、内海渉

文部科学省（4名）：量子研究推進室 奥篤史 室長、對崎真楠 室長補佐、萩谷遥平 専門職、岡村航 行政調査員

放射光学会（3名）：朝倉清高（会長）、田旺帝（庶務幹事：会議進行役、議事録作成）、佐藤亜己奈（事務局）

欠席者（1名）：高田昌樹

〈会長からの挨拶〉

COVID-19の感染拡大という10年、20年に一度の事態にどう対処したかという情報を共有し、連携について議論したい。

〈審議事項〉

1. COVID-19に関する各施設の現状と対応：現状と今後の方向性（各施設、文部科学省）

南から施設の対応および現状、問題点等の話をいただいた。

（佐賀 SR：妹尾、郭）：3-5月は止まっていたところが多かったが、運転開始したところが多い。自主規制により4月利用は減少。施設から特別要請は行っていない。研究者ごとに期限の決まった学生や企業、地域への貢献と感染拡大防止の両立。

（HiSOR：島田）1月から3月にかけて利用者全体の20%を占める海外利用者のキャンセルが相次ぎ、3月に予定していたシンポジウムもキャンセルした。4月からは、国の緊急事態宣言を受けて県外利用者のアクセス制限、さらに広島県の要請をうけて大学が4月22日より行動指針レベル3（大学へ立ち入り禁止）を設定したことにより運転停止。6月1日より利用運転再開。当面は学内中心の限定利用を実施。7月より県をまたぐ利用者の利用を検討中。海外利用者は制限を継続。リモートあるいは代行測定を検討中。

（SPring-8：石川）全体として、RIKEN 規定に基づき、COVID-19関連研究のみを受け入れる。その他、タンパク質解析、エクモ関連研究を受け入れ。6月中旬より、徐々に通常受け入れに戻りつつある。海外利用者の受け入れはほとんどなし。代わりに、ハイブリッド測定（海外利用者と施設側がリアルタイムで測定を行う）や測定代行、リモート操作などを実施し、これまでと異なる新しい測定方式が見えつつある。2020A 期ビーム配分を B 期に移行。卒業予定の学生のためのビーム配分の検討中。

（SPring-8：雨宮）2020A 期ビーム配分（キャンセル）のため、2020B の課題申請は中止し、2020A 課題を実施。ビーム配分に空きがある場合は、2020A として課題を募集する予定

（NewSUBARU：渡邊）RIKEN と JASRI、大学の規制に基づき、5月27日より運転再開。ただし、外部ユーザーは受け入れない。受託・測定代行で企業のニーズに対応。6月29日より国内すべての外部利用者を受け入れ中。企業からの測定代行はスケジュールがかなり埋まっている状態。学生の場合、一か月前から B4 以上、許可制で利用を実施中。感染状況を鑑み、遠隔講義と対面講義を併せながら、卒業予定の学生のための対応を行っている。

（原研：西畑）RIKEN 規制に基づいて運営中

（立命館 SR：小島）5月22日より運転開始。大学方針により7月末までオンライン講義、学生利用は原則禁止。学生の RI 講習ができず、10月中旬より B3 学生の実習や B4 以上の利用を予定。外部利用者は施設内で3時間以内の相談には対応。成果報告会（6月）は中止、9月に行う予定。

（UVSOR：解良）分子科学研究所の規制に基づき、レベル2で維持。可能な限り、共同利用研究に対応。4～5月メンテナンス後、5月下旬より予定通り運転を行っている。ただし、所属機関の規制により、21グループが利用、21グループがキャンセル（8週間運転）。利用者は例年の同じ時期より1/3程度。体調チェックリストなどで対策をとっている。COVID-19関連研究を受付しているが、実施されているものはない。代行測定（1件）実施。大学の RI 講習ができず、利用キャンセルになった事例もある。

（あいち SR：竹田）自粛要請対象外施設として継続運転。3月はキャンセル料は取らずにキャンセルも受付。あるいは、測定代行

で対応。例年より、測定代行が増加。4月はメインテナンスが中断したため、在宅ワーク実施。5月連休明けより、測定代行のみで実施。6~7月は条件付き（所属機関の規制、体調など）で利用実施。8~9月（第3期）も同様な対応。

（PF：船守）第一期（5~6月）の配分を一旦すべてキャンセル。状況の好転を受けて、第二期に向けての準備として、6月15日~7月1日の二週間、遠隔化・自動化のための試験、学位取得のための課題を中心に実施。PF-ARは停止。タンパク質結晶構造解析の分野では、遠隔・自動測定がうまく機能。課題申請は例年通りに募集。秋以降の運転も現状では例年通り。通信ネットワーク強化、ビームラインの遠隔・自動測定性能強化、施設間を含む試料搬送法の共通化などを検討中。

（次世代SR：内海）3月末に建設業者決定（鹿島）。5月連休後、工事再開（3週間中断のため、工期の2か月遅れあり。令和5年First beam, 6年共用開始予定。）。加速器は発注済みであるが、サプライチェーン問題などの工期遅延の懸念事案あり。

（量子研究推進室：対崎）話題提供（配布資料） 1. 特定先端施設整備（東北放射光、量子ビームのあり方小委員会検討。放射光学会へ 1) 量子ビーム関連の大学・大学院の学部・学科・専攻の数や生徒数の規模感についての調査、2) 人材育成（特に、人材のローテーション）についてのご意見を伺いたい。2. 新型コロナウイルス感染症に関する研究動向。研究設備の遠隔化・自動化への環境整備支援。

2. 総合討論

1) 利用者（国内・海外）への対応

（石川）海外に対しては、日本と相手国との方針による。両国の規制に基づくのが基本であるが、DX化により、かなりの研究者は現地（海外）に居て、精鋭少数の派遣部隊だけが放射光施設に来て、議論をしながら実験する体制が定着している。

測定代行として、放射光学会の外側にいる方にとっては、放射光施設での実験より、データが重要とされている。今後のこうしたユーザー側に対応すればいいか。

機械化・自動化・ロボット化が今後の放射光利用者（単なる利用ではなく、利益につながる）の拡大につながる。

一方、ビームタイムのかなりの部分（5~10%）がビームハッチの開閉によりロスされており、これをいかに効率化できるかが検討・開発を行っている。

（雨宮）相手の代行になるとスタッフがロボットになる懸念がある。そのため、測定のロボット化は重要であると考えている。どのぐらいのスピード感でロボット化ができるか（技術的・予算的）、経験が多いあいちSRにお伺いしたい。

→（竹田）最初のセットは人間がやるしかないが、あいちSRはBL担当者が2名（各1BL当たり）いるので可能。硬X線透過測定であれば、試料セットさえできれば、測定だけでなく、ある程度の解析まで自動化が出来るように進めている（重点研究プロジェクトとして、1年程度を目途に進めている。ただし、試料セットは人が行う前提）。軟X線に関してもサンプルバンクを用意して、同様に自動化する検討を行っている。

測定代行は仕組みがエスタブリッシュされれば需要は減らない。ただ、地域密着型施設の場合は、教育面も重要なので、基本は施設に来ていただくなど多様なやり方が出来ると思う。

（渡邊）放射光の外側のユーザーをどのように取り込めるか。企業との共同研究の場合、タイムリーのタイムスケジュール管理が重要である。そのため、もともと測定代行の仕組みはなかったが、企業の要望に応えるため対応している。しかし、マンパワーの限界に達している。

また、自動測定は予算があれば実現できるが、何処まで（試料の搬送・セット・サイズなどのギャップなど）自動化するので予算が変わるので、その範囲を極める必要がある。

海外と国内（企業）の要望のプライオリティーを決めることが難しい。こうした難しさは数年続くと思われる。

（朝倉）海外と国内（企業）の要望のプライオリティーに対して、施設間でシェアできることは可能か。→（渡邊）現案件では研究内容の特殊性からシェアは難しいのが現状。

2) 代行測定の現状・今後の課題、ユーザー側への要望など

（船守）代行測定の定義がやや曖昧。完全代行にはマンパワーが足りない。現状としては、試料セットは施設スタッフがを行い、測定はリモートで利用者が行うなどしている。

（島田）PFのタンパク質測定の自動化のように設備が整備できるとよいのだが、HiSORの場合、超高真空中での試料準備を含むため自動化が容易でない。これまでは利用者自身が実験を行うことが基本であり、代行測定については想定していなかった。教育的観点からは、学生自身が手を動かして実験することが重要であったりもする。しかし、今回の状況に至り、どのように学生がビームラインにアクセスでき教育効果が得られるようにするか課題。試料搬送やセットに関して、真空搬送チャンパーの検討も行っている。代行測定について佐賀SRやあいちSRの事例を教えてください。

（竹田）代行測定：よくわかっているユーザーの試料を預かり、1.5倍料金で実施。測定代行の場合は、データ整理まで行っているため、1.5倍料金。3月以降は、測定代行の課題が増えている。初めてのユーザーに対して時間内に限られたマンパワーで測定件数をこなせるか。この点については、事前測定で見積もりを取り、本測定の2段階で対応しようとしている。メールインだけではなくキャリアイン（ユーザーは施設まで試料を持ち込んでいただき、測定は施設スタッフが協議しながら行っている）も実施している。軟X線についてもトランスファーベッセル（立命館SRと同じ仕様、光プラットフォームで運営）で対応している。

（妹尾）測定代行のシステムはなく、初心者向けの測定が原則。佐賀県内の企業に関しては手厚いケアを行っている。放射光測定で企業の課題が解決できるのであれば、施設の研究者と企業との相談しながら、丁寧なレポートまで提供している。ただ、数が増加した場合の対応はまだ検討していない。

3) 今後の対応について

（朝倉）放射光利用に関して、従事資格者の規制緩和についての可能性→（対崎）関連部署（原子力規制庁）の所管する制度になるが、文科省としても現場の声を伺って対応したい。

（竹田）あいちSRで月2回放射線作業従事者教育訓練（各20名程度）を実施中。オンライン講習により従来と変わらない対応を行っている。日程などの詳細はHPに掲載中。

(船守)放射線関係で2点。eラーニングに関して、SP8は昨年度より導入、PFも来年度より導入予定。遠隔操作と放射線作業に関して、現状、PFではビームラインシャッターの遠隔操作は許可していない。他の施設ではどのように対応しているか。→(石川)SP8では遠隔操作でも放射線作業従事者の制限あり。しかし、規制をどのように緩和していくかを考えなければならない。

一方で、RI教育に関しては、産業利用拡大にとっては大きな障害(コスト増)になっており、規制庁への改善要望を産業界に働きかけている。

(島田)RI教育訓練はリモートでできるが、新規登録者の場合、健康診断ができないことが問題となった。

(雨宮)放射線作業従事者に関して、次世代SRではどうする予定か。

→(内海)検討中である。実験ホールを管理区域から外すことにトライするため、規制庁にもサウンドディングしながら、検討を進めている(委員会立ち上げ準備中)。

委員会の意見を踏まえて、事前の放射線従事者登録がなくても利用者が放射光実験が行えるように規制庁に働きかけたい。そのためには、産業界やコミュニティの協力が欠かせない。

3. その他

- 田庶務幹事より、日本放射光学会三賞公募(功労報賞)の案内(期限:2020年7月17日(金)午後5時)があった。
- 第3回拡大施設長会議日程(予定):2020年10月頃

■日本放射光学会第127回評議員会議事録

日時:2020年7月11日(土) 14:00~16:00

場所:Web(Zoom)会議

出席者(29名):朝倉清高(会長),阿部仁,雨宮慶幸,稲田康宏,太田俊明,大橋治彦,尾嶋正治,加藤政博,木村昭夫,木村真一,組頭広志,小杉信博,辛埴,田中義人,中尾裕則,初井宇記,藤原明比古,船守展正,水木純一郎,村上洋一,矢代航,山本雅貴,若林裕助
小嗣真人(行事幹事),関山明(編集幹事),高橋嘉夫(会計幹事),田旺帝(庶務幹事),中村哲也(渉外幹事),和達大樹(広報幹事)

欠席者(7名):石川哲也,内海渉,岸本浩通,高田昌樹,原田悠久,松田巖,渡辺義夫

事務局:佐藤亜己奈

<審議事項>

1. 会員異動

田庶務幹事より、第126回評議員会以降の入会申請に関して、入会:13名(内学生5名),シニア会員1名の報告があり、これを承認した。退会に関して、退会:正会員13名(内学生8名),賛助会員1社1口を確認した。2020年7月11日現在の総会員数は、1229名(内学生106名),名誉会員3名,シニア会員79名,賛助会員49社(51口),特別賛助会員13団体(20口)。

また、現在会費2年滞納となっている48名のリスト、連絡先不明となっている31名のリストを確認した。

2. 協賛・後援・共催

中村渉外幹事より、本学会に対する協賛・後援・共催依頼について事後承認の依頼があり、協賛5件を承認した。

3. COVID-19関連:既存会員への対応について

田庶務幹事より、研究活動支援、学生支援、退会抑制を目的として、「正会員・賛助会員・購読会員から会費猶予の申し出があれば、2021年度に限って会費を猶予する。」「学生会員は申し出がなくても、2021年会費を一律免除する。(未納分は該当しない)」ことについて提案があり、これを承認した。

また、現在、賛助会員には休会規定が無いことから、今後細則の改訂を検討する予定との説明があった。

4. 新規会員を増やす工夫について

田庶務幹事より、非会員(一般・学生)が各種イベントに個人として参加した場合、一年限定の正会員資格を付与することを検討している旨、説明があった。評議員からの意見も参考にして今後検討を進めることについて承認した。

5. 評議員候補推薦人数の変更について

第123回評議員会で、評議員選挙に関する現在の細則「正会員の中から次期評議員候補の推薦を求め、3名以上によって推薦された者」では候補の人数が多くなり、結果的に評議員に決定される上位15名の得票が少なくなってしまうことから、例えば「5名以上によって推薦された者」に変更してはどうかとの意見があり、検討を行うこととしていたが、その後継続審議されていなかった旨、田庶務幹事より説明があった。これについて審議した結果、推薦人数を変更すべきという意見と現状のままで良いという両者の意見があった。現状のまま推薦人数を変更しないという選択肢も含めて継続審議とし、遅くとも次年度の選挙前までには決定することとした。また、評議員候補が次年度(10月)より、シニア会員へ移行を希望した場合、評議員候補者とするかどうかについて審議した結果、候補者としめない方向で検討を進めることとした。

6. 特別委員会の立ち上げについて

朝倉会長より、今後の放射光研究のあり方について検討をする特別委員会を立ち上げたい旨、提案があった。出席委員より、特別委員会を立ち上げる目的は何か、最終的に誰に向けた提言をまとめるのかなど様々な質問や意見があった。引き続き意見聴取し内容が明確になるよう再検討することとした。

<報告事項>

1. 次期評議員選挙結果

田庶務幹事より、次期評議員選挙の結果について報告があった。次期改選評議員(15名)は下記の通り。

新評議員:足立伸一,雨宮健太,有馬孝尚,五十嵐教之,岡島敏浩,木下豊彦,解良聡,小林幸則,近藤寛,島田賢也,高橋嘉夫,為則雄祐,矢橋牧名,横山利彦,和達大樹

2. 年会・合同シンポジウム委員の申し合わせ

小嗣行事幹事より、年会・合同シンポジウム委員の申し合わせについて、組織委員の箇所を下記のように改正する旨、報告があった。

(改正前)
(組織委員会) 1. 組織委員会は、主幹共催団体である日本放射光学会の会長、行事幹事、会計幹事、および各共催団体（放射光施設、利用者懇談会等）から1名ずつ推薦された委員により構成される。
(改正後)
(組織委員会) 1. 組織委員会は、主幹共催団体である日本放射光学会の会長、行事幹事、会計幹事、および各共催団体（放射光施設、利用者懇談会等）から1名ずつ推薦された委員により構成される。 <u>なお、行事幹事、会計幹事においては、定款第19、22条に基づき幹事任期満了となる場合でも、年会業務終了まで前幹事が委員を継続する。この場合、組織委員長</u> の業務は、 <u>前行事幹事が年会業務終了まで遂行する。また会計監査は、前会計幹事が行う。</u>

3. JSR2021準備状況

小同行事幹事より、第34回年会・合同シンポ（JSR2021）の準備状況について、現地開催とオンライン開催の両面で検討しており、8月末に方針決定予定との報告があった。懇親会はプログラム委員会で検討した結果、新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止の観点から中止としたいとの説明があり、評議員会ででも了承した。

また、分野名称について、VSX 原子分子を VSX 分子科学に変更すること、学生発表賞の重複受賞に関しては規定を検討中であることなどについて報告があった。

4. 第12回基礎講習会準備状況

小同行事幹事より、第12回基礎講習会『ゼロからわかる放射光 基礎から応用まで』の準備状況について報告があった。2020年9月16日（水）～17日（木）にオンライン開催。初日の基礎編は参加費無料。

5. AOFSSR 活動報告

中村渉外幹事より、AOF School 2020の中止、AO-SRI 2020の延期、AOFSSR メンバー交代（施設長交代のため）について報告があった。

6. 会誌編集状況

関山編集幹事より、依頼記事、特集号、試料環境シリーズの進捗状況、編集委員会の開催予定について報告があった。

7. KEK 機構長、物構研所長への要望書

朝倉会長より、KEK 機構長、物構研所長へのフォトンファクトリーの運転時間確保に関する要望書を提出したことについて報告があった。また、出席委員より、コロナ禍の中での運転時間の確保に関して、他の施設にも同様の要望書を出すべきではないかとの意見があった。

8. COVID-19対応放射光学会 BCP

朝倉会長より、COVID-19の感染防止・拡大防止のため学会活動・行事は Online 開催すること、景気の悪化に対応した学会収支のスリム化の検討、会員減防止・学会活動維持のための会費1年猶予、学生会員会費免除など、COVID-19対応のBCPについて報告があった。

9. 拡大放射光施設代表者会議

朝倉会長より、2020年7月9日に第2回拡大放射光施設代表者会議を Zoom で開催した旨、報告があった。

10. 学会三賞公募について

田庶務幹事より、学会三賞応募状況の報告があり、評議員員に対して候補者推薦の依頼があった。

11. 放射光学会ホームページの改訂について

和達広報幹事より、広報委員メンバーの紹介とホームページ改訂の検討状況について報告があった。また、出席委員より、年会・合同シンポジウム登録の会員ページで、会費未納状況を明示することで滞納者・除籍者を減らす工夫をしてはどうかとの意見があり、検討することになった。

評議員会日程（予定）の確認

第128回評議員会 2020年10月24日（土） 場所：Web（Zoom）会議で開催予定

● 会誌オンライン利用方法に関するご案内 ●

編集委員長 関山 明
渉外幹事 中村哲也

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID: jsr335

Password: 5t9kZmDa

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、学会誌「放射光」のオンライン閲覧をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等ございましたら、中村（tetsuya.nakamura.b5@tohoku.ac.jp）までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、関山（sekiyama@mp.es.osaka-u.ac.jp）までお願いします。

■会員異動

第127回評議員会（2020年7月11日）で承認

《正会員入会》

- 柴崎 裕樹 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光実験施設
 姜 正敏 東北大学 多元物質科学研究所 放射光可視化情報計測研究分野 高橋幸生研究室
 田端 千紘 京都大学複合原子力科学研究所 原子力基礎工学研究部門
 桜井 郁也 名古屋大学 シンクロトロン光研究センター
 阪田 薫穂 高エネルギー加速器研究機構
 水津 理恵 名古屋大学大学院理学研究科物質理学専攻（化学系）物性化学研究室
 竹内 章博 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科学部門 次世代放射光施設整備開発センター
 泉 謙一 JSR 株式会社四日市研究センター物性分析室
- 以上 8 名

《学生会員入会》

- 竹澤 伸吾 東京理科大学基礎工学部材料工学科小嗣研究室
 古矢 大悟 東京理科大学基礎工学部材料工学科
 吉成 朝子 東京理科大学基礎工学部材料工学科小嗣研究室
 小林 海斗 東京理科大学基礎工学部材料工学科小嗣研究室
 山本 雅大 東京理科大学 基礎工学研究科 材料工学専攻小嗣研究室
- 以上 5 名

《シニア会員入会》

- 平井 康晴
- 以上 1 名

《退会会員》

正会員 5 名，学生会員 8 名，賛助会員 1 社 1 口

《会員数》

会員1229名（内学生106名） 名誉会員 3 名 シニア会員79名
 賛助会員49社（51口） 特別賛助会員13団体（20口）

■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2020年 10/19-30	2020年度オンライン真空講習会入門講座	オンライン開催	公益社団法人日本表面真空学会 E-mail: office@jvss.jp	33・5
10/21	第14回九州シンクロトロン光研究センター 研究成果報告会	ホテルマリタール創世	公益財団法人佐賀県地域産業支援センター 九州シンクロトロン光研究センター http://www.saga-ls.jp/	33・4
11/9-11	第49回結晶成長国内会議 (JCCG-49)	オンライン開催	日本結晶成長学会 E-mail: jccg-49@jacg.jp	33・5
11/2-30	2020年度オンライン真空講習会	オンライン開催	公益社団法人日本表面真空学会 E-mail: office@jvss.jp	33・5
11/9-11	2020年度日本中性子科学会年次大会	オンライン開催	日本中性子科学会 https://www.jsns.net/jsns2020	33・5
11/9-12	第33回マイクロプロセス・ナノテクノロ ジ国際会議	Web 会議	公益社団法人 応用物理学会 E-mail: secretariat@imnc.jp	33・2
11/13	第23回ミレニアム・サイエンス・フォーラ ム	駐日英国大使館大使公 邸	ミレニアム・サイエンス・フォーラム E-mail: msf@oxinst.com	33・2
11/19-21	2020年日本表面真空学会学術講演会	オンライン開催	公益社団法人日本表面真空学会 E-mail: taikai2020@jvss.jp	33・5
12/2-4	第61回高压討論会	オンライン開催	日本高圧力学会 E-mail: touronkai61@highpressure.jp	33・5
2021年 11/28 -12/2	The 9th International Symposium on Sur- face Science (ISSS-9)	サンポート高松 (サン ポートホール高松&か がわ国際会議場)	公益社団法人 日本表面真空学会 E-mail: iss9@jvss.jp	33・1

■2020年度オンライン真空講習会入門講座

主 催：公益社団法人日本表面真空学会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：オンデマンド講義受講可能期間：2020年10月19日（月）
12:00～30日（金）12:00

場 所：オンライン開催

定 員：200名（先着順にて定員に達し次第締め切ります。）

問合せ先：

公益社団法人日本表面真空学会 事務局
E-mail: office@jvss.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5階
TEL 03-3812-0266 FAX 03-3812-2897

詳 細：https://www.jvss.jp/

■第49回結晶成長国内会議 (JCCG-49)

主 催：日本結晶成長学会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：2020年11月9日（月）～11月11日（水）

場 所：オンライン開催

問合せ先：

日本結晶成長学会事務局
E-mail: jccg-49@jacg.jp
詳 細：https://www.jacg.jp/

■2020年度オンライン真空講習会

主 催：公益社団法人日本表面真空学会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：オンデマンド講義受講可能期間：2020年11月2日（月）
12:00～30日（月）12:00

場 所：オンライン開催

定 員：200名（先着順にて定員に達し次第締め切ります。）

問合せ先：

公益社団法人日本表面真空学会 事務局
E-mail: office@jvss.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5階
TEL 03-3812-0266 FAX 03-3812-2897

詳 細：https://www.jvss.jp/

■2020年度 日本中性子科学会 年次大会

主 催：日本中性子科学会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：2020年11月9日（月）～11月11日（水）
場 所：オンライン開催
詳 細：<https://www.jsns.net/jsns2020>

■2020年日本表面真空学会学術講演会

主 催：公益社団法人日本表面真空学会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：2020年11月19日（木）～11月21日（土）
場 所：オンライン開催
問合せ先：E-mail: taikai2020@jvss.jp
詳 細：<https://www.jvss.jp/>

■第61回高圧討論会

主 催：日本高圧力学会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：2020年12月2日（水）～12月4日（金）
場 所：オンライン開催
問合せ先：
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-11-4
大阪駅前第4ビル9階 923-674号
株式会社ポラリス・セクレタリーズ・オフィス内
第61回高圧討論会事務局
TEL：070-5658-7626 FAX: 020-4665-8596 / 06-6345-7931
E-mail: touonkai61@highpressure.jp
詳 細：<http://www.highpressure.jp/new/61forum/>